

第1回郡上市男女共同参画推進審議会 要録

1. 日 時 令和元年7月18日(木) 午後1時30分から午後3時30分
2. 場 所 郡上市役所 4階 大会議室
3. 出席者 和佐田裕昭委員、谷口天馬委員、奥村文乃委員、石山加代子委員、美谷添晃委員、小畑裕己委員、池戸すなお委員、原早奈江委員、山下優子委員、日置次郎委員、市原愛委員(欠席3名)
4. 職務による出席 日置市長公室長、河合企画課長、高田課長補佐、笠野主任主査
5. 会議内容

<開会> 山下会長あいさつ

委員の皆様のご意見をお願いしたい。

<市長公室長あいさつ>

現行の第2次男女共同参画プランが令和元年度をもって終了するため、今年度中に第3次男女共同参画プランを策定することとしている。策定にあたっては、当審議会において審議いただくこととしており、委員の皆様にはご協力をお願いしたい。

なお、本日は議事に入る前に、第3次プラン策定に向けて岐阜県より講師の上鶴瀬先生にお越しいただいた。講義をよく聞き、策定の参考にさせていただきたい。

<委員委嘱> 市長公室長より日置次郎委員に委嘱書交付

<講義>

『第3次郡上市男女共同参画プラン策定に向けて』

岐阜県派遣講師

NPO 法人参画プラネット/プランナー 上鶴瀬 孝志 氏

議事

(1) 平成30年度活動実績について

- ・別紙資料1「第2次郡上市男女共同参画プラン進捗状況～平成30年度実績(主な取り組み)～」に基づき事務局より説明。
- ・特段の質疑無し

(2) 第2次プランの検証について

- ・別紙資料2「第2次郡上市男女共同参画プラン進捗状況(平成27年度～平成30年度)」、別紙資料3「第2次郡上市男女共同参画プラン 目標数値」、別紙資料4「第2次プランの検証について」に基づき事務局より説明。

質疑・意見

委員：夫から DV を受けたことが原因で郡上を出たケースや、そうした中で子どもを連れてまた戻ってきたケースが一定数存在する。

母親が父親から DV を受けている家庭のお子さんをケアし、人権、人格を守りながら未来に向けて育てていきたい。小さいころに見てきた場面は脳に残っている。親が DV を受けていた子どもの語彙は暴力的であることが多い。言葉やものの意味をうまく考えることができない場合が多い。違う言葉の種類をたくさん入れてあげる必要がある。学校側もサポートをしているが、なかなか難しい。女性のこと、DV のことと、子どもの成長のことをクロスして考えていただけると良い。

事務局：学校の対応、母子の対応など、部署が分かれている。一本化できるのか、連携していけるのか今後検討していきたい。スムーズに連携できるよう、考慮していきたい。

(3) 第3次プラン策定について

- ・別紙資料5「第3次郡上市男女共同参画プラン策定について」、別紙資料6「第3次郡上市男女共同参画プランの施策体系」、別紙資料7「郡上市男女共同参画に関する事業所意識調査集計表」に基づき事務局より説明。

質疑・意見（総括的な質疑・意見を含む。）

委員：アンケートは次回いつ行うのか。

事務局：基本的に5年ごとに実施している。まちづくりアンケートに関しては、3年に1回行っている。

委員：DV の設問に関して、内容を知っているかという項目であるが、どのような質問内容か。

事務局：「あなたは DV（ドメスティックバイオレンス）の意味を知っていますか」という設問であり、その下にドメスティックバイオレンスの解説を書き、定義を明確にしたうえで質問している。

委員：男女共同参画市民アンケートの「市がすべきこと」で、「男女がともに家事・子育て・介護を行うための施策を推進する」「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」という点について、世の中は女性が介護をするというイメージが強い。高齢化が進む郡上市では、介護サービスが充実した市になってほしいと思う。女性は特にそれを希望している。女性だけでなく、男性も育児や介護を一緒にしていくことを希望する

- 委員：結婚・出産・子育てのライフスタイルは各家庭で選べると良い。女性が外に出ていくことだけが男女共同参画ではない。それぞれの家庭で相談して、外に出たい人が外に出る、家のことをしたい人が家のことをできるという環境が作れたら良い。
- 委員：事業所アンケートを行ったのはとても良いことである。事業所の方がどのように男女共同参画を考え、関わっているのかがよくわかる。個人や家庭で男女共同参画を考えていたとしても、自分が所属する企業が変わらなければ意味がない。5年ごとのアンケートということで、5年後どのように変化しているかが楽しみである。
- 委員：保育施設に入れないという状況がある。兄弟で違う保育園に通わせなければならぬという人もいる。保育施設の充実を希望する声は多い。
- 委員：価値観の違いは大きい。アンケートの結果を各家庭に配布してはどうか。家族の会話の中でアンケートに関する話題が出ると良い。アンケートを積極的に活用することで、郡上市民の意識が男女共同参画に向いていくのではないだろうか。見たくない、聞きたくないという人にとっても、アンケートが送られてこれば少しでも興味を示してもらえるかもしれない。そういった形で少しずつ意識が向いていけば良いと思う。一斉配信ができるシステムがあれば、電子的により多くの人から情報を集め、伝えることができるかもしれない。

以上、15時30分終了。